

市指定文化財<工芸品>

きくちでんらいこわたりにしき
菊池伝来古渡錦

指定日 昭和45年2月13日

所在地 菊池市隈府 菊池神社



菊池伝来古渡錦は、長さ321.5cm、幅55cmの錦織りで、動物に騎乗する唐子風の人物や植物・動物を多彩に織り出している図柄であって、エキゾチックな情緒を漂わせており、多種多様な模様が、繊細な技巧で色彩豊かに織り出されている。「古渡」とは、室町時代、またはそれ以前に、外国おもに中国から日本に伝来した布帛(織物)・器物・薬物などの呼び名である。なかでも、16世紀の中葉以降に伝来した更紗は、古渡更紗と呼ばれ、大変貴重なものとされた。「錦」は、三枚綾の地合に多くの金銀系や絵緯を織り込み、華麗な模様を織り出した紋織物のことで、おもに絹織物を指すが、木綿を地系にしたものもある。紋様の美しさをたどってというほどである。菊池家の姫君が帯として用いていたと言い伝えられている。